

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校



3月の声を聞いたのがつい昨日のように感じられますが、春分を迎え、もう修了式の日がやってきました。まだ肌寒さを感じる天見の里にも、温かい陽日が差し込む日が増え、春を感じます。

今日は子どもたちに一年間のがんばった「あゆみ」をお渡ししました。一年間、いろんなことを頑張ってきた子どもたち。身体が大きくなった子、学習面で伸びた子、思いやりなど心の面で伸びた子、意欲が伸びた子、考えの深まりが伸びた子・・・それぞれに伸び方も伸びたところも違うかもしれませんが、私から見ても1年前の子どもたちとは全然違い、たくましく、大きく、立派になったと感じています。どうぞ1年間を思い返してできるようになったことを、今日は褒めてあげてください。褒められると必ず自己肯定感が育ち、もっと頑張っていこうと思う気持ちになります。

先日卒業式が無事挙行されました。立派に卒業していった11人の子どもたち。晴れ晴れしい日ではありますが、6年間一緒に過ごした子どもたちと別れるのがとても寂しい日でもあります。今日の修了式も同じで、おそらく先生方は、「一年間ありがとう。これからもこの調子で頑張つて。」と子どもたちに伝えておられることでしょう。

## 天見小学校の「お別れ会」

なんと心温まるお別れ会だったことでしょう。たくさんの方に見守られながら一人ひとり、6年生は晴れ晴れしい顔で入場し、合奏を披露してくれました。



1年生から6年生の出し物に、心打たれる時間がたくさんあり何度も目を潤わせながら、歌や合奏を聞いていました。最後の64人の合唱では学校一丸となって歌を歌う様子を見て、これこそ「天見のよいところ」だと心からそう思いました。子ども一人ひとりの結びつきや関係が強く、それぞれの学年に6年生との思い出があるからこそ、こんなに心のこもった「お別れ会」ができるのだらうと思えました。

学校に通う子どもたちの人数は少ないかもしれませんが、質の高いつながりを子どもたちは感じてくれているのだと、改めて、感じることができました。

参観に来てくださった保護者のみなさま、地域の方々には、いつも子どもたちを温かく見守ってくださっていることにお礼を申し上げます。子どもたちの合唱や合奏から元気をもらっていただけたら、とてもうれしいです。

今後もどうぞ温かく見守ってくださるようよろしくお願いいたします。

お忙しい中、ご参観ありがとうございました。

## 学校全員遊び 6年生や体育委員会の企画



子どもたちには卒業式の式辞の中で伝えましたが、本当に下級生思いの6年生でした。たてわりの班で、よく下の学年の面倒を見てくれました。3学期には、6年生主催で、全校遊びを何回か企画してくれ、(逃走中やかくれんぼ) 全校のみんなが笑顔で走りまわって遊ぶことができました。子どもたちだけでなく、学校中の教員も外に出て、全員で同じ遊びをしているなんて、なんて幸せな時間を感じたことでしょう。

こんなことができる学校、どこにもないです。人数的なものもありますが、学校中が仲がいいこと、全員の名前を知っていること、学年を超えてよく話をしていること・・・などなどすべてが相まって素敵な時間と空間が生まれるのだと思います。これを企画した6年生もみんなの笑顔を見ながら、大満足の様子でした。「人を楽しませること」を楽しいということを勉強してくれたのだと思うとそれだけでものすごくプラスになった勉強だなと思います。「人のために」企画したり、動けたりすることは、社会の中に出て一番大切なことだと思うからです。

卒業式の練習中にも、素敵なサプライズを6年生はたくさん在校生や我々にしてくれました。

6年生だけの練習では、卒業証書を渡した私に一言ずつメッセージを送ってくれました。5年生との合同練習では5年生の一人ひとりにメッセージを送ってくれました。卒業式の予行の時には、各学年や他学年の先生方にメッセージを送ってくれました。

心のこもったその言葉を聞いていると何度も泣けてきて、私は大変でした。

粹なサプライズに心を打たれ、この伝統を次の学年が引き継ぎ、そうやって「人が喜ぶ顔」を見るのが嬉しい「人」に育っていくのではないのでしょうか。

## 卒業 おめでとう！

今年度は河内長野市

市長が天見小学校の卒業式に出席してくださり、来賓の方々、保護者、先生、そして全校児童の在校生、たくさんの人に見守られながら、立派に11人、天見小学校から巣立っていきました。前を向き、堂々と胸を張り天見小学校の門をくぐっていきました。



天見小学校では、全校児童が卒業式に出席します。長い時間を、姿勢よく頑張った在校生の態度にも感心しました。代表で6年生に伝えた5年生がしっかりとがんばってくれたことも嬉しかったですし、贈る言葉を全員で声を合わせた6年生への「ありがとうございました。」の言葉やビリーブの歌声にも感動しました。

6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。これからの未来に希望を膨らませ、自分の信じる道を歩いて行ってほしいと願っています。

卒業式でお話したことを中核のみ、お伝えさせていただきます。

・・・略・・・  
あなたたちのこの一年間の活躍からも、天見小学校での6年間の学びの深さが、良くわかりました。なぜなら、この一年間、みなさんが学校の中心として、力いっぱい取り組んでくれたことが伝わってきたからです。そして、その様子から、わが校で大切にされてきた教育がしっかりと身につけていると感じたからです。

まず、思いやりが育ちました。ともに天見小学校で学ぶ友だちや下級生への思いやりです。縦わり活動では、皆を引っ張り、やさしい言葉がけを忘れず、下級生があこがれる6年生でいて

くれていました。

次に自主性です。行事のたびに自分たちで作り出していくバイタリティを感じました。全校みんな遊びや皆が楽しめる天小まつりを考え、学校の全員が笑顔になる時間を作ってくれました。

三つ目に信頼です。運動会 組み立て体操で大きく開いたその一輪の花で、11人が互いに信頼し合い、心が一つになっていることを感じました。

このように、様々なことを学んできたあなたたちに、小学校最後に送りたい言葉は、この言葉です。

「私は運がいい人間だ。」この言葉を言ったのは、松下幸之助さんという方です。

みなさん、松下幸之助さんという人を知っていますか。電機メーカーの「パナソニック」という会社を創ったひとです。和歌山で生まれましたが、家が貧しかったので、たった9歳で、一人大阪に来て働きはじめました。その後、22歳の時に住んでいた4畳半一間のアパートの半分を工場にし、「松下電機器具 製作所」という会社を作りました。それからたくさんの努力をして 現在の「パナソニック」という大きな会社にまで成長させた人です。

松下幸之助さんは常々、自分は「運がいい人間だ。」と話されていたそうです。

年を取られてから、「あなたは、なぜ成功したのだと思いますか。」と聞かれ、その理由を3つ言われました。

まず一つ目「家が貧乏だったから」、そして二つ目「小学校しか 行っていなかったから」、最後に 三つ目「体が弱かったから」というのが、成功した理由だとおっしゃったのです。みなさん、この話を聞いてどうですか。成功の理由のように感じましたか。

この三つは、普通の人なら、できない理由に使います。「貧乏だから」うまくいかなかった、「学歴がないから」何もできなかった、「体が弱いから」思うように動けなかった、と言ってもおかしくないはずです。

でも、幸之助さんは、こうおっしゃったのです。「貧乏だから必死になって働いた。」「学歴がないからすべての人から学ぼうとした。」「体が弱かったから、仕事を人に任せて 人を育てることができた。」と。

幸之助さんにとって、「運がいい」ということは 次々と、自分にとってラッキーな出来事が起こるということではありませんでした。たとえ、それが一般的には不幸な出来事であったとしても、自分の意志で、プラスに受け止め、ポジティブに考え、次につなげることができたことを、「運がいい」と思われたのです。

その話をお聞きすると、結局のところ、「運がいい人、悪い人」というのは、存在せず、「自分は、運がいい」と思っている人と、「自分は、運が悪い」と思っている人がいるだけなのではないかと思えます。

「自分は運がいい」と思える人は、あらゆることを、ポジティブに考えられる人、うまくいったときは、「おかげさまで」と周りの人に感謝できる人、うまくいかなかったときには、「どうしたらうまくいくのだろう」と次に考えがつながる人のことです。

これからの人生、つらいことや心が折れてしまいそうなこともあるでしょう。でもそんなときも、「運が悪い」とあきらめるのではなく、「この出来事があったから、今の私がいる。」と考え

てみるのが大切なのではないでしょうか。

あなたの心次第で、運のいい人にもなれるし、運の悪い人にもなるのです。皆さんには、ぜひ「運のいい」人生を歩んでほしいと願っています。

春からは中学生です。今まで以上に「自分で考え、判断し、行動する力」が求められます。中学校で学習する色々なことに興味を持ち、挑戦をし続け、どんなときにも「自分にとって運がいい出来事だった。」と、プラスに受け止められる力、ポジティブに考えられる力を磨いて、しっかりと歩いていってください。

卒業生の皆さん、どうか体に気をつけて、立派に活躍されることを祈っています。皆さんの可能性に、皆さんの頑張りに、私たち天見小学校の教職員みんな、応援し、期待をしています。

・・・略・・・

有難いことに、この話を市長とPTA会長が取り上げてくださり、さらに深まる話にしてくださいました。

市長は、「校長先生のお話しにもあったように、これからの人生、なんでもポジティブ思考で乗り切ってください。」と卒業生にエールを送ってくださいました。

PTA会長からは、「過去は変えられないが、未来は自分の力でいくらでも変えることができる。」とお話しされた後、「しかし、校長先生のお話を聞いていると、気持ちの持ちようで、過去も変えられるように思いました。事実是不変わらないけれど、その意味合いが変わってきます。」と。

本当にその通りだなと思いました。

今回の校長室だよりですが、一枚に収まりきらず、長くなってしまい、申し訳ありません。子どもたちには卒業式で「ポジティブ思考」について伝えることができたのですが、松下幸之助さんのこのお話には、私自身勇気づけられ、前向きに頑張る気持ちが、大切だと改めて思うことができました。なので、ともに今の時代を生きているお家の方にも、読んでもらえたらと思い、載せさせていただきました。長文をここまで読んでいただきありがとうございました。

4月に天見小学校に赴任してきて早1年。赴任してきた途端に、この学校の周りの山や川の自然の美しさにほれ込み、この少人数での子どもたちの濃い関わりに感銘を受け、その中で育つ子どもたちののびのびとした子どもらしさに感嘆し、保護者のみなさまや地域のみなさまと一緒に子育てや教育に携われていることがとてもうれしく感じた一年でした。

市長も卒業式に出席されたことをフェイスブックでお話しされていましたが、小規模特認校として少人数の中で学べる環境、この自然の中でさまざまな体験を学べる環境、人と人とのつながりを深く感じながら学べる環境、それが天見小学校の良さだと思います。

先々も、卒業生にも在校生にも教職員にも、「天見小学校」が我々の自慢できる小学校であり続けることを願いながら、この一年をしめくりたいと思います。

みなさま、一年間ありがとうございました。明るい子どもたちの声が天見小学校からたくさん聞こえるように来年度もともに子どものため、頑張らせてください。これからも、どうぞよろしくお願いたします。4月に子どもたちにお話しした、「三感王」・・・感性を磨く、感動をたくさん味わう、感謝の心を持つ・・・この三つを忘れず突き進みたいと思います。